

交配育種による短節間エンドウの品種育成について ～有望系統「No.4-83-3-2」の節間長は「きしゅうすい」の半分～

1. はじめに

本県における実エンドウの主要品種である「きしゅうすい」は、ハウス促成栽培で草丈が4～5mにもなり、誘引や収穫の際に脚立が必要となる作業負担の大きい品種です。そこで、節間及び草丈を短くした実エンドウの品種を育成しています。今回は交配育種で得られた有望系統「No.4-83-3-2」を「きしゅうすい」と比較して、紹介します。

2. 試験方法

供試系統：「No.4-83-3-2」(F₈世代)
 対照品種：「きしゅうすい」
 耕種概要：播種日：2013年9月20日、うね幅：150cm、株間：10cm、1条、1穴2粒まき(1株に間引き)、主枝一本仕立て、ガラス温室栽培、最低気温5℃、電照処理(10月3日から10月15日まで終夜照明)

3. 試験結果

(1) 早晩性

「No.4-83-3-2」の開花始め日は10月28日となり、「きしゅうすい」とほぼ同時期となりました(データ省略)。

(2) 莢の形状と特性及び青実

「No.4-83-3-2」は「きしゅうすい」よりそり莢率が低く、やや短く薄い莢でしたが、1莢青実重が重く、青実歩留りが高くなりました(表1)。また、「No.4-83-3-2」の青実の1粒重は0.67gで、「きしゅうすい」の0.59gより重くなりました。

表1 供試品種・系統の莢の形状と特性

品種・系統	そり莢率 (%)	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	1莢重 (g)	1莢青実数 (粒)	1莢青実重 (g)	青実歩留まり ^Y (%)	莢色
No.4-83-3-2	11.3	92.7	15.8	14.3	11.7	7.6	5.1	43.3	淡緑
きしゅうすい	17.0	98.1	15.1	16.7	11.9	7.8	4.5	38.3	淡緑

調査日：2014年3月24日～4月1日 1区8～20莢、2反復

^Zそりが1cm以上の莢をそり莢とした

^Y青実歩留まり(%)=1莢青実重/1莢重×100

調査対象：L莢^X L莢は、実入り4粒以上、莢の長さ(実入り部分)6cm以上、形状、色沢良好で実詰まりのよい物とした

(3) 節数、草丈及び節間長

「No.4-83-3-2」の節数は「きしゅうすい」とほぼ同じで、草丈及び節間長はほぼ半分になりました(表2)。

表2 供試品種・系統の節数、草丈及び節間長

品種・系統	節数 (節)	草丈 (cm)	節間長 ^Z (cm)
No.4-83-3-2	55.4	226.9	4.1
きしゅうすい	57.3	478.8	8.4

調査日：2014年5月19日、20日 1区5～14株、2反復

^Z節間長(cm)=草丈/節数

(4) 収量とL莢収量

「No.4-83-3-2」の総収量は「きしゅうすい」より約10%少なくなりましたが、L莢総収量は1405kg/10a、L莢率は52.1%と、「きしゅうすい」より高くなりました(図1)。

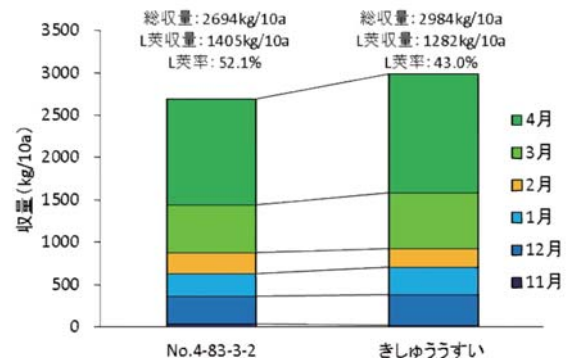


図1 供試品種・系統の月別及び総収量調査は2014年4月30日まで

4. まとめ

「No.4-83-3-2」の節間長と草丈は「きしゅうすい」のほぼ半分、総収量は約10%少ないですが、青実が重く、L莢総収量が多い特徴があることがわかりました。

(育種部 小谷 泰之)